

[様式 9 - 1]

## 福祉サービス等第三者評価結果

## 総合評価

受診施設名	明星保育園	施設種別	保育所
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」		

2013年1月29日

総 評	<p>明星保育園は「ひとりはおみんなのために みんなはひとりのために」という理念と「ともに生活する仲間として子どもを捉える」という方針のもと、子どもが自らの力で成長できる保育を実践されています。開設まもない時期、埼玉県にある保育園での実践に影響を受け、保護者とともに「子どもの発達を大切にする保育」が始まったとお聞きしました。職員が子どもと話しをするとき自然と視線を合わせ子どもの話をしっかりと聴いている姿や、全体でリズムに取り組むときうまく行かない子にそっと寄り添う姿などからもその姿勢が伺えました。</p> <p>園舎は、昭和52年に開設した当時の面影を残す内部が木造造りで、押入れを改造して秘密基地のような空間を作り出す等、子どもたちが創造力を活かして遊べるよう配慮されていました。また、園庭には、木々が多く植えられ、築山をはじめ子どもたちが水や土を使って「どろんこ」になって遊べる環境が整えられていました。子どもたちが、保育や遊びを通じて考える力に繋がっていました。</p> <p>その保育を担う職員の労働環境は、「配置人数を増やし子どもと向き合う時間を確保する」「会議や委員会は、できるかぎり勤務時間内に開催する」など、多くの配慮がされていました。</p> <p>そうした一方、保護者等への周知という部分に課題を感じます。入園前の保護者説明で用いる「入園のしおり」は、大変わかりやすくまとめられ、園での方針や諸注意など細かく記載されていました。しかし、その説明が入園後に継続されていないと感じます。社会が目まぐるしく変動する中、保育園での保育課程や事業計画など、基本的な方針について、十分な説明と理解を得ることは重要であります。園の実践は上述したように素晴らしい理念や方針により行われていますが、その保育も十分な説明をすることにより生きてくるものです。園長の説明にあったように、保育内容を周知浸透させる工夫をされてはいかがでしょうか。</p> <p>また、保育課程の策定や中間総括での振り返りなど、多くのことが文書で記載されていました。職員の子どもへの想いが強く感じられた結果と思いますが、課程（計画）に対しては客観的な評価が必要です。園長が認識されているように「計画→実行→評価→改善（PDCA）」を実施しやすく工夫することが必要であろうと感じました。</p> <p>今後も子どもたち一人ひとりの発達を大切にする、質の高い保育実践の持続発展に期待いたします。</p>
-----	---

<p>特に良かった点(※)</p>	<p><b>I-1-(1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。</b>        保育園の理念「ひとりはおみんなのために みんなはひとりのために」のもと、具体的な基本方針「ともに生活する仲間として子どもを捉える」が示されていました。その理念・基本方針は、毎月開催される会議でも確認され、組織として統一した認識により、質の高い保育実践がされていました。</p> <p><b>II-3-(1) ①②地域との関係が適切に確保されている。</b>        隣接する万福寺境内の散歩をはじめ、地域との相互理解のもと社会資源を有効に活用されていました。また、未就園児への園庭解放やテント等の設備貸出など、地域が必要としている保育園の設備を積極的に活用していました。</p> <p><b>IV-1-(1) 健康管理・食事</b>        旬の食材を用いて季節感を持たせる献立を作成し、素材の味を大切にされた食事が提供されていました。また、食育の視点を大切にして、食事は「生きる源である」という考えのもと、「給食たより」の発行やサンプル食の提示とそのレシピの配布を行うなど、家庭と連携して食事を通じた子どもの体づくりを行っていました。</p>
<p>特に改善が望まれる点(※)</p>	<p><b>I-1-(2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。</b>        入園前の保護者説明で用いる「入園のしおり」は、理念・基本方針が示されるとともに、保育園での様子や持ち物、周辺の状況等が記載され、大変わかりやすい内容となっていました。しかし、入園後、保育園の事業計画をはじめ保育の基本的方針等の説明が不十分な状況でした。保護者懇談会や広報誌を通じて、継続的に運営方針等を周知されてはいかがでしょうか。</p> <p><b>III-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。</b>        保育課程の作成にあたって、責任者会議で保育課程の内容説明がされていましたが、職員間での話し合いにより意見を反映するという部分は課題があります。また、保育園の自己評価は、保育士の自己評価をもとに年1回実施しているとのことでしたが、評価分析の体制は不十分な状況でした。保育課程の作成、自己評価の分析など、組織に基づく体系化が望まれます。</p> <p><b>IV-3-(1) 安全・事故防止</b>        事故や災害時に対応できるマニュアルは整備されていましたが、内容を災害別に分類するなどの見直しは実施されていませんでした。事故について事例の収集や検討を行い、未然防止策の検討につなげていく必要があると思われます。また、マニュアルの実用性を高めるためにはマニュアルに基づいた職員研修を実施されてはいかがでしょうか。</p>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

# 京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

---

## 【保育所版】

# 評価結果対比シート

---

受診施設名	社会福祉法人宇治明星園 明星保育園
施設種別	保育所
評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
訪問調査日	平成24年11月15日

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
I-1 保育の理念・基本方針・目標	I-1-1(1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。	① 保育の理念が明文化されている。	B	A
		② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。	B	A
	I-1-1(2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。	① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。	B	A
		② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。	B	B
I-2 計画の策定	I-2-1(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	① 中・長期計画が策定されている。(非該当)	非該当	非該当
	I-2-2(2) 保育の計画が適切に策定されている。	① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている	B	A
		② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。	B	A
		③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。	C	B
		④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。	B	A
		⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。	C	B
I-3 管理者の責任とリーダーシップ	I-3-1(1) 管理者の責任が明確にされている。	① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。	B	B
		② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	C	B
	I-3-1(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	B	A
		② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	B	A
[自由記述欄]				
I-1-1(1)	①②保育の理念・基本方針、それに基づく保育目標が明文化され、ホームページ等に記載されていた。			
I-1-1(2)	①毎月実施される職員会議で周知がされていた。 ②理念・基本方針は、パンフレット等に記載しているが、保護者等へ周知は不十分であった。			
I-2-2(2)	①保育課程は、保育指針や保育理念・基本方針をもとに策定されていた。 ②保育課程に基づき、年間計画と短期計画が策定されていた。 ③保育課程は、中間総括により振り返りが行われ、必要な修正が実施されていた。しかし、客観的な評価となっていなかった。 ④保育課程や指導計画は、クラス担当者会議等により吸い上げた職員の意見を反映していた。 ⑤保育課程や指導計画は、毎月発行される機関紙「みょうじょうたより」で伝えられていたが、浸透させる取り組みは不十分であった。			
I-3-1(1)	①園長自らの責任と役割は、機関紙により表明されていた。職務分掌等の規程は確認できなかった。 ②法令遵守に関する研修会への参加は確認できた。コンプライアンスの徹底は、不十分な状況であった。			
I-3-1(2)	①半期ごとに実施される総括の機会を利用して職員から意見を聞き、環境や設備について必要な改善がされていた。 ②定期的に分析を行い、人員状況も含め経営状況を把握していた。			

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
II-1 経営状況の把握	II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	B	B	
II-2 人材の確保・養成	II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。	① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	C	B	
		① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	B	B	
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	B	A	
		II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	B	B
			② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	B	B
	③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	C	B		
II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。	① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。	C	B		
	② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。	C	B		
II-3 地域との交流と連携	II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	A	A	
		② 事業所が有する機能を地域に還元している。	A	A	
		③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	B	B	
	II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。	① 必要な社会資源を明確にしている。	B	B	
[自由記述欄]					
II-1-(1)	①毎月、宇治市担当者を招聘して園長会を実施しているが、市域における状況把握には至っていない。				
II-2-(1)	①職員ごとに目標管理を行い、その評価を通じて人材育成を行っていたが、全体的な人材育成に関する方針等は確認できなかった。				
II-2-(2)	①年1回、園長と主任によるヒアリングを実施していた。また、目標管理シートにより評価を実施していた。人材や人員に対する改善について、プラン等への改善状況は確認できなかった。 ②京都府民間社会福祉施設職員共済会への加入や、年間一定額の被服費を支給するなど、福利厚生が実施されていた。				
II-2-(3)	①年間研修計画を策定していたが、研修や教育の基本方針等は確認できなかった。 ②③個人の目標管理シートによる自己評価を反映して、研修や教育を実施する仕組みを確認した。個人目標を基礎とした研修体系は実施されていなかった。				
II-2-(4)	①②実習生の受け入れは、保育士の後継者育成という理念を持ち、職員全員がその意義を理解した上で実施されていた。実習生受け入れマニュアルは、確認できなかった。				
II-3-(1)	①隣接する万福寺境内の散歩をはじめ、地域との相互理解のもと社会資源を有効に活用していた。 ②未就園児への園庭解放やテント等の設備貸出など保育園が有する設備を地域に還元していた。 ③中高生をはじめボランティア受け入れは積極的に実施していたが、受け入れマニュアル等は確認できなかった。				
II-3-(2)	①宇治市内の子育て機関や児童相談所等、必要な社会資源は情報共有されていたが、そのリストや資料作成の状況は確認できなかった。				

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	B	B
		② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	A	A
	Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	C	C
Ⅲ-2 サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。	① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。	C	B
		② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。	B	B
	Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。	① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている	B	A
		② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	C	B
		③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	A	A
	Ⅲ-3 サービスの開始・継続	Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。	① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	B
② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。			A	A
Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。		① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	B	B
[自由記述欄]				
Ⅲ-1-(1)	個人情報の規程を整備し、保護者へ説明と同意を得ていた。職員会議で職員への周知は実施していたが、研修会の開催状況は確認できなかった。			
Ⅲ-1-(2)	①苦情解決の体制は整備していたが、保護者等に資料配布や掲示など周知の状況は確認できなかった。 ②保護者からの意見や提案への対応マニュアルを整備していた。保護者からの「意見」や「苦情」には迅速に対応していた。			
Ⅲ-2-(1)	①前回は平成21年に受診している。評価を踏まえて保育課程を作成している。今回受診するにあたって責任者会議では内容は説明されているが、十分な話し合いはされていない。 ②保育所の自己評価は、保育士の自己評価をもとに年1回実施されていたが、評価分析の体制は不十分であった。			
Ⅲ-2-(2)	①子どもの身体状況や生活状況は、児童票、保護者連絡票により把握し記録している。アセスメントの定期的見直しが実施されていた。 ②保育実践等は適切に記録され、その記録に対する守秘義務も徹底されていた。しかし、記録の管理責任者や保管・保存等に関する規程の整備状況は確認できなかった。 ③子どもの発達や保育目標等が組織的に情報共有され、責任者会議、職員会議ではかり、話し合いが行われていた。毎月の責任者会議で子どもの状況を共有していた。			
Ⅲ-3-(1)	①ホームページやDVDを作成して、保育園の情報を提供していた。宇治市が作成した保育所案内は確認したが、園独自のパンフレットは作成されていなかった。 ②園の方針がわかりやすくまとめられた「入園のしおり」を作成して、保護者への説明を行っていた。			
Ⅲ-3-(2)	他園への転園等にあたっては、保育の継続性に配慮し、健康記録などを渡している。その後の相談などは継続できる体制はとっているが、その内容を記載した文書は確認できなかった。			

IV-1 子どもの発達援助

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果		
			自己評価	第三者評価	
IV-1 子どもの発達援助	IV-1-(1)健康管理・食事	① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している	B	A	
		② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	B	A	
		③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている	B	A	
		④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している	B	A	
		⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている	A	A	
		⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている	A	A	
		⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している	B	A	
		⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている	A	A	
	IV-1-(2)保育環境	① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	B	B	
		② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている	B	A	
	IV-1-(3)保育内容	① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている	B	A	
		② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している	A	A	
		③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている	B	A	
		④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている	A	A	
		⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている	A	A	
		⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している	A	A	
		⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している	B	A	
		⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している	B	A	
		⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	B	A	
		⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる	C	B	
		⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる	B	B	
	<b>【自由記述欄】</b>				
	IV-1-(1)	①健康管理に関するマニュアルが整備されていた。体調のすぐれない子どもは、職員の休憩室でゆっくり休息するなど柔軟に対応し保護者に詳細を説明するなど、一人ひとりの健康状態に応じて丁寧な対応がみられた。			
②③健康診断、歯科健診は年に2回実施、身長、体重の測定は月に1回実施され、診断結果を保育や家庭保育に反映されていた。					
④感染症に関するマニュアルが整備され、年度初めに乳幼児室の消毒を実施するなど感染症予防対策がされていた。					
IV-1-(2)	⑤⑥木の温もりが感じられる部屋で柔軟な使い方ができる机や椅子を選び、食事を落ち着いて楽しむ環境があった。年長児は給食の献立を調理室に聞きに行く当番、年中児は野菜の皮をむく当番活動を日々行い、子ども達が献立や調理に興味を持つ工夫がなされていた。また、毎月「世界の料理の日」という設定で様々な国のメニューを取り入れて、子ども達の楽しみにつながっていた。				
	⑦ホームページに「給食で大切にしていること」というコーナーを設け、給食室から様々な情報を発信すると同時に、園内にも「朝食の重要性」、「栄養バランス」などについて掲示して保護者に伝える工夫をしていた。				
IV-1-(3)	①保育室は清潔に保たれ、ガラスには危険防止のシールを貼るなど子どもの視点で安全確保への工夫がなされていたが、各部屋に湿度計は設置されていなかった。				
IV-1-(3)	①子ども達にとって保育士は「生活を共にする仲間である」という考えから、子ども達は保育士をニックネームで呼んでいた。一人ひとりに寄りそい自然体で接するという姿勢を大切に、子どもの視点で話すということが徹底されていた。				
	②0歳児室に新たにお尻洗いの設備を備え、排泄後すぐに清潔にして子ども達が気持ちよさを実感できるようにするなど、無理のないトイレトレーニングが実施されていた。				
	③④保育方針のひとつに「豊かな体験を通じて、意欲的、創造的に遊べる子ども」と謳われ、園内では押入れを改造して基地のように遊べる空間にしたり、園庭では築山や多くの木々があり、水・砂・土など変化する素材で自由に遊べる工夫がみられた。また、日々の散歩や夏の「タペの集い」、冬の「クリスマス会」などを通して地域との交流を図られていた。				
	⑤保育方針に基づき、身体づくりや感性を育てる目的で日々リズム遊びがされていた。また、運動会や社会体験などについて子どもたちが「からだ全体」を使って表現できるよう、体験を基とした絵画作成など創作活動が行われていた。				
	⑥保育方針のひとつに「自分のことは自分でできる子ども」と謳われ、食事や清掃の当番活動などに取り組んでいた。土曜保育は乳幼児縦割りを実施されていた。				
IV-1-(3)	⑦畳のフロアと木床のフロアからなる乳児室は採光がよく床暖房で、お尻洗い室も新たに設置され、乳児保育にふさわしい環境整備がされていた。				
	⑩長時間保育は実施されているが、夕食や軽食の提供は現在行われていなかった。				

## IV-2 子育て支援

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-2 子育て支援	IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援	① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている	A	A
		② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている	B	B
		③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている	A	A
		④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている	B	B
		⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている	A	A
		⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容(指導計画)や小学校など専門機関との連携に活かされている。	B	B
	IV-2-(2)一時保育	① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている	C	非該当

### [自由記述欄]

IV-2-(1)	①送迎時に保護者との情報交換に努め、個別懇談、クラス懇談や家庭訪問(年1回)が実施されていた。
	②保護者との情報交換の内容は保育日誌などに詳細が記録されていたが、保育士により記録にばらつきが生じない工夫や取組みが確認できなかった。
	③親子遠足、運動会、生活発表会など親子参加の企画があり、保護者との共通理解を深めることを大切にされていた。
	④⑤児童虐待に関するマニュアルが整備され、登園時の観察は特に注意を払われていたが、マニュアルに基づく職員研修が未実施であった。児童相談所など通告にあたっての連絡先は明示されていた。
	⑥保育記録に指導計画に基づくサービス内容は日々状況が詳細に記録されていた。(「みんなのなかで育つ全体の中の個人」という考えから個人のケース記録はつくっていない。)記録に関する研修は未実施だった。

## IV-3 安全・事故防止

評価分類	評価項目	評価細目	評価結果	
			自己評価	第三者評価
IV-3 安全・事故防止	(1)安全・事故防止	① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている	B	B
		② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている	B	B
		③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている	B	B
		④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	B
		⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている	B	B

### [自由記述欄]

IV-3-(1)	①衛生管理に関するマニュアルは整備され職員研修も実施されていたが、マニュアルの定期的な見直し等は確認できなかった。
	②食中毒の発生時における対応マニュアルは整備されていたが、マニュアルの定期的な見直しや職員研修は実施されていなかった。
	③安全教育として、避難訓練(月1回)や交通安全教室(年1回)が実施されていた。マニュアルの定期的な見直し等は確認できなかった。
	④事故や災害時に対応できるマニュアルは整備されていたが、災害別の分類などがなく不十分であった。
	⑤不審者の侵入防止のため門にはモニターが設置されていた。マニュアルは整備されていたが、定期的な見直しは確認できなかった。